

ことたま学 島田正路氏著書 より抜粋

その 236

言霊の原理は 1

言霊の原理は 今から約 1 万年前 日本人の祖先によって発見されました 人間の心を構成する五十個の言霊と、その言霊の運用操作の典型的な方法五十計百個の原理です。

言霊のことをまた霊と言い、言霊原理を知る人を霊知りと呼びました。霊知りの集団が大挙してこの日本列島にやってきて、国を開きました。

言霊原理に則ってその風土・風習に合わせ物事に名前を付け、その原理的な名前がそのまま集団生活に受け入れられる文化社会をつくることです。国家の始まりです。

八千年以前より約三千年前まで五千年間、日本においては邇邇芸皇朝・日子穗穗出見皇朝・鵜草葺不合皇朝と精神文明の華やかな平和な時代が続きました。

日本の精神文明の成果は世界に向かって輸出され、「世界は一つの言葉であった」と聖書に記された世界平和の時代が続いたのです。この五千年の時代を世界の各宗教・神話・伝説は神代の時代として現在に伝えています。

その 237 につづく

ことたま学 島田正路氏著書 より抜粋

その 237

言霊の原理は 2

五千年間続いた人類の精神文明時代の末期、外国において今より三千年から四千年以前、日本においては二千年より三千年以前、長い間続いた精神文明に転換の時が来ました。

日本から外国に向けての精神文明の移出は徐々に中止されました。そして外国においては精神文明とは反対に、物事を自分らの自らの外に見て観察研究する物質科学的研究が発達してきました。

人類の第 1 文明である精神文明に次ぐ第 2 の科学的文化の台頭です。そしてこの人類の物事を観察する新しい傾向を百パーセント決定づけたのが、今から二千年前日本において断行された言霊原理の隠滅という政治選択でありました。

五千年にわたる人類の精神文明の中心的よりどころは、物事を人間のうちから見る精神性のすべてを解明した言霊原理であります。

この原理によって創造した 精神文明の文化の日本より外国に向けての普及をやめ、その末にその原理を保有し、伝承してきた日本の皇室自体が原理の運用を中止し、その原理自体を人間の自覚の段階から外なる信仰の対象である伊勢神宮の神様として祀ってしまったことにことでもあります。神倭朝十代崇神天皇の時のことでした。

その 238 につづく

ことたま学 島田正路氏著書 より抜粋

その 238

言霊の原理は 3

この精神の歴史における 1 つの決定は、その後の地球上の人々の心の持ち方を 180 度転換させてしまいました。

その時まで自明の理であった自らの家庭・社会・国家を創造する人間本来の能力を忘れ去ってしまいました。明日に何が起こり、自分がどうなっていくかわからなくなった人間は、自分が実際授かっている性能を神として祀った神社を拝み、明日の幸運を祈願するようになりました。

平和共存から弱肉強食の獣の社会に変わった人類に対して、為政者たちが執った政策は儒・仏・耶
(キリスト教)をはじめとする各宗教の創設でした。

人々は自らの中にある人間の最も素晴らしい能力である創造の原理を、今度は自ら外なる神様とし
て「明日に幸あれ」と拝むように変わったのです。

爾来^{じらい}二千年間人類は打ち続く戦乱・飢餓・貧困・病苦の社会の中から、輝かしい人類第二の文
明である物質科学文明を建設したのでした。

人類の第 1 文明である精神文明の基礎となったことが原理とほぼ同様の厳密・正確な物質構造原

理の解明に到達するのも近いことでしょう。

と同時に この物質科学文明が人間精神の規制を超えて独走するならば、人類破滅という運命が待ち構えている事態となりました。

この時を期していたかの如く、人類の第一文明の精神原理布斗麻邇は、日本の祖先、皇祖皇宗の経綸に従ってこの地球上に昔ながらの姿を現したのです。

しかも 昔の日本皇室の言霊原理独占の制度ではなく、真理は全世界に公開・解放されて日本語を話すことが出来、志ある者ならば誰しもが言霊布斗麻邇の原理を習得することができる状況が開かれたのです。

その 239 につづく